

北の資料 117

北海道立図書館所蔵

# 林家文書 追加目録

(平成19年2月現在)

北海道立図書館

## はじめに

当館所蔵「林家文書」の目録は、『北の資料』36号（昭和56年3月発行）として発行しています。その収録内容は、目録番号1～427（428点）でした。その発行以降に追加収蔵された林家文書、目録番号429～457（207点）の目録として当目録を発行します。

また、今回、所蔵している林家文書の全資料（目録番号1～457）をデジタル化するとともに、目録番号454～457（182点）については、マイクロフィルム化し閲覧・複写等の利用に供せられることとなりました。

デジタルおよびマイクロフィルム化にあたっては、大学共同利用機関法人・総合地球環境学研究所（所在地：京都府）「日本列島における人間－自然相互関係の歴史・文化的検討」プロジェクト北海道班のご協力をいただきました。感謝し御礼申し上げます。

なお、次頁の林家文書の解説および凡例は、『北の資料』36号の再掲です。本目録作成にあたっては、君尹彦氏の御協力を得ましたことを記し、併せて感謝し御礼申し上げます。

## 林家文書

ここに紹介する本館所蔵の林家文書は、現在余市町で所蔵する林家文書と互いに補い合う資料であるが、北海道史研究上でもきわめて重要なものである。

この文書の旧蔵者である林家の初代長左衛門は秋田県出身で、文化元年（1804）にはじめて松前に渡り、屋号を竹屋と称して枝ヶ崎町に商店をひらきつつ財力をたくわえ、ついに場所請負人となった。文政元年（1818）から厚岸場所を請負い、さらにそれを返上して余市場所を請負った。

長左衛門はそれまで余市場所を請負っていた柏屋藤野喜兵衛がたてた運上家を改築し、余市アイヌを使役してもっぱら漁業をいとなみ、その後 4 代の間余市の請負を継続して明治 2 年に至った。

林家が開発に貢献した功績は大きいですが、事業の中でも著しいものは、天保 10 年の余市大浜中よりフコベに至る約 1 里の道路の開削、弘化 3 年の鯨建網の新設、安政 3 年から 4 年にかけての余市山道 12 里余の開削などがある。

余市にのこる林家の居家「旧下ヨイチ運上家」は 16 世紀末松前藩が蝦夷地入封後、領内各地に 80 ヶ所ほど設けた交易上の施設のうち本道に現存する唯一の例である。

北海道における明治以前の数少ない建造物として、その価値が認められて、昭和 46 年に国の重要文化財に指定されたが、昭和 51 年 7 月から 3 年 9 カ月を要して、大修理が行なわれ、往時をしのぶ建物として再現された。

元来、本道を支配した松前藩は、本土とは異なり、米を産出しなかったため農業を基礎とする経済を営むことができず、水産物や獣皮などを商品とする商業交易を経営すると共に、商人や漁師からの徴税で藩の財政をまかなっていた。

そして藩士も禄高の代わりに商場（あきないは）を与えられ、本州の商人と物産の取り引きをしていた。

しかし藩も知行主である藩士も多くの失敗を重ねたりしたため、享保、元文年間には商人から交易権と引きかえに運上金や礼金を受けとって代りに経営をまかせるようになった。

この商人を「場所請負人」、交易所を「運上家」とよんでいる。

このような事情から場所請負人の資料はたんなる商人としての資料にとどまらず実質的な行政権をも行使した歴史資料とみることができる。

また林家は安政 6 年（1859）に松前藩から苗字帯刀を許され、町年寄を命ぜられ、士席に列して藩政に深くかかわったため、松前町の動きなどもよく記録にのこされている。

林家は最近まで漁業を続けていたため資料がほとんど残っており、他の場所請負関係資料が大部分流出した中であって貴重な存在である。

文書の関係する範囲はきわめて広く、東蝦夷地の虻田から厚岸、西蝦夷地の積丹から石狩にまたがっており余市にかぎっているものではない。

なお余市町で所蔵する文書類は町の有形文化財に指定されているが、数百件、千数百点

に及ぶとされている。

そのうち町の手で、かなりの文書の解読を終えて、「林家古文書解読史料日録」および「余市町町史資料叢書」として刊行された。未解読の文書については「林家古文書未解読史料目録全」として刊行されている。

本館で収集した文書については、今後の解読、研究に待たなければならないが、従来の北海道史の欠落部分を補うものと期待される。

〔凡例〕資料は、年代の明らかなものと不明なものに区分し、さらに年代が明らかであっても、323番以降は横長本のため整理の都合上、最後にまわした。資料の保存状況などから散逸資料が数多く出てきたが、標題のあるものは極力表記するようつとめた。また、314～317番の「雑」とあるのは、標題のついていない散逸資料をまとめたものであって、この中からも貴重な記述をみつけだせると思うが、整理する時点では詳細に区分することはできなかった。

〔『北の資料』36 特集林家文書目録より再掲〕

請求記号 H093-Ha

〔マイクロフィルム HM-3470 DVD DVD-79〕

- 4 2 9 当座帳 明治17年-26年 綴 178丁 表紙に「濱」
- 4 3 0 履歴調書 林長左衛門 明治17年12月 綴 32丁 (朱線罫紙使用)  
 内容：原籍. 余市郡請負運上金. 道路新開. 橋梁架設. 渡船場. 営繕非常備品.  
 御備馬. 各献金. 貧困者給与. 戸数人別. 漁網. 収穫品. 旧土人. 漁場拝借ヶ  
 所. 鯉鮭網建. 履歴表.  
 明治17年12月札幌県庁へ提出 その後の追記あり
- 4 3 1 余市町史 第1巻 (資料編1)  
 余市町史編集室編 余市町 1985. 12 1冊 1731p 22cm  
 余市町所蔵の竹屋林家文書の内、日記. 書簡. 各種触書. 人別、ヲムシヤ. 産  
 物. 合船. 出入津. 役人通行賄. 他を翻刻し、解題. 林家系図等を付す
- 4 3 2 芝居台詞  
 忠義公を主人公とする. 所有者：松世話方. 閏7月 綴 18丁  
 奥書「いろはかな忠臣義士の書そへ四十七本」
- 4 3 3 新規約不加盟ノ義上申控 明治23年7月21日 林長左衛門より郡長宛 綴  
 2丁 水産物営業組合格約の件
- 4 3 4 鮭漁業拡張の件  
 ① 御説諭願 (明治22年6月2日)  
 ② 鮭魚曳網ノ義御利解願  
 ③ 余市川及ノッチ川鮭蕃殖組合格約御認可之義願 (明治20年8月31日)  
 ④ 余市川及ノッチ川鮭魚蕃殖組合格約  
 ⑤ 海面建網. 海面川面曳網人名  
 明治20-22年 綴 9丁
- 4 3 5 佐々木善次へ御許可相成候鮭漁業中差網之件ニ付嘆願上申 綴 2丁
- 4 3 6 余市郡川村佐々木善次鮭沖繰網使用につき御答書 明治26年1月13日 林長  
 左衛門 綴 3丁
- 4 3 7 證券印税心得 證券印紙規則 (太政官布告) の筆写 明治6年8月 林家写 綴  
 23丁 (福山竹屋名の罫紙)
- 4 3 8 買物通帳 安政2年1月 綴 (表紙とも4丁) 表紙に「御通 たにや 御  
 中」
- 4 3 9 代胸簿 明治6年1月1日より12月30日まで 筆者は「朝恭」と表紙にあり  
 林家漁場経営、公文書写等あり 綴 94丁
- 4 4 0 諸用帳 慶応3年5月 林朝恭 (4代目林長左衛門)  
 余市漁場の地名、番屋、建網、運上金、越年上納、出産物等のほか南部番人名.  
 西蝦夷地場所順、運上金、諸国船宿、オムシヤ等を筆録 綴 117丁 箱つき
- 4 4 1 御賄賃銭請払帳 表「万延2年正月」裏「林長左衛門」 取引先別 横帳 1冊
- 4 4 2 ヨイチ濱中家並名前留 亥歳 (文久3か) 横帳 1冊 7丁

- 4 4 3 惣人別調 余市運上家調 卯年（慶応3か） 補修済 1枚
- 4 4 4 覚 モイレより西へ網建場処 己巳年（明治2か） 横帳2丁
- 4 4 5 小樽御開拓御役所御達書写 明治2年12月 西地場所請負人から開拓使に差出した伺書願書の控 「林長」と表紙にあり 16丁
- 4 4 6 書状綴 差出人：直衛門（別家） 宛先：林家本家 安政6年 3通  
\*ヨイチ場所へ出張中の「竹屋御本家」宛 松前の〔京田〕直衛門より（ヨイチ、イワナイ山道開削の褒章のことなど）
- 4 4 7 戸籍御改永住人別書写 林源左衛門ほか余市元小家関係者の人別帳 明治4年12月 綴 19丁
- 4 4 8 〔諸願諸写綴〕 明治6から13年にかけての林家発受の公私文書控 綴 140丁
- 4 4 9 福山店表より至来状 明治10年 元小家 綴 44丁
- 4 5 0 福山店より至来状 明治11-12年 元小家 綴 74丁
- 4 5 1 福山店表より至来状 明治11年 元小家 綴 29丁
- 4 5 2 札幌製網売捌心得書 明治11年 綴 14丁  
\*「札幌製網売捌人心得（開拓使物産局 明治11年12月）,「札幌製網小樽売捌値段」。別に「札幌製網売捌之儀ニ付願 明治十二年三月二十五日 林源左衛門 開拓大書記官調所広丈宛」1通あり
- 4 5 3 東京仕入帳 明治23年10月 余市郡林商店 48丁
- 4 5 4 余市元小家書簡類
- 1 福山本店宛 申年（明治5年）1月24日 1通  
為替手形受取 南部番人60人着、雇土人50人余承知したが未だ出勤せず 役土人に談判中70人不足、調達には金子必要、借用、戸籍改につき願でなきもの送籍は不都合
  - 2 福山本店宛 3月9日 4丁  
寿丸落船、日和次第城下へ向う、初鯡以来模様なかったが、3月5日より豊漁、良運丸、村田屋船、白米他値段、大板は小板に、東村様注文品、その他詰員人事、大根の種注文、当所の片付けには6000両もかかりそうだ
  - 3 福山本店宛 明治5年4月11日 5丁  
東村様注文の品見合せ、残り塩の数、鯡漁況、大時化、スクツシ、勝内古平他の漁況、当所で買入品目、数量（ささめ用）  
\*別添：「当所にて買入品相場書」1枚物あり。
  - 4 福山本店宛 4月22日 6丁  
当所買入品ムシロ、加賀米は荷物取組、良運丸より白米買入、春より問屋株式開店、山田吉右衛門着、帆前船取組、御下金一回もなく借金、久栄丸運賃渡し、長寿丸他の予定、荷物値段下落、下り船不足、漁況
  - 5 福山本店宛 4月26日 3丁

久栄丸入船、ムシロが送状より少ない、漁業取切であてにならず、晴天なく干物仕上らず

- 6 福山本店宛 4月26日 1通  
臼井様、秋田屋出立 当年船々の下り不足 仕入品下し方差支、漁具品を除き当方で買調てよろしいか、相庭書を送るので指示を
- 7 福山本店宛 4月26日 1通  
臼井様出立、船下り不足、下し物不弁利、昨年注文の品を除き当地で買入れてはどうか、その相庭書
- 8 福山本店宛 5月7日 2丁  
大洋丸着書状拝見、荷物手配 4月中旬サツホロへ黒田様がくるかどうか、東村様本国に向け出立、秋田屋丑松出立
- 9 福山本店宛 5月14日 3丁  
賄物を送る、たよりがなく様子わからず、良運丸入船 樽を請取、運賃をこちらで払った
- 10 福山本店宛 5月14日 1通  
運賃積清正丸出帆、樽、むしろ他書状添 便りがなく心配している、江差酢屋よりの品請取、良運丸入船
- 11 福山本店宛 5月16日 2丁  
飛脚着、同帰便に千四百両渡す、白神治郎兵衛船縄請取、馬形神太忍路着、当澗内には弁財15艘ほどのみ  
別添：「米酒等の相場書 5月17日」一枚物あり
- 12 福山本店宛 5月21日 5丁  
飛脚に千四百両持たせる。本店で入用金の件承知した、については当方で入用の分をまとめたので了解してほしい、帆前船取組の本店分は五百石にしてほしい、入用金は7月までに融通、カツナイ、スクツシの荷物御下ケ金はあてにならぬが札幌表に内願のつもり
- 13 福山本店宛 6月1日 2丁  
長寿丸、久栄丸入船、当場所及小樽での（漁獲物）直段が一切分からない、従って大不融通で困惑、本陣より百五十両だけ出金あり、大洋丸は小樽入船、当港へ廻船、松前で直段が成立次第早便で知らせてほしい
- 14 福山本店宛 6月8日 3枚  
吉田屋内義川崎船で着、取込につき書状差上げず、長寿丸の荷物メ粕、身欠、直帆にすることをきめた、福山の様子がわからず、金子不融通
- 15 福山本店宛 7月6日 1通  
長寿丸売船取極り、この船は大坂へ直帆の予定だったが、どのようになるか、船頭船中に心付けがいるか、もし破談になったら至急知らせてほしい

\*別に追伸の書付1枚を付す。

- 16 林新家内宛 7月14日 1通  
北海道郡名披見を、美や女よりの品長次郎のこと、魚場廻り人撰、長七小樽滞留、長寿丸アツタ登り、油断ならず、地面売払
- 17 林長左衛門宛 12月6日 3丁  
竹印為替金一件、長七殿の言は気につけぬよう、山吉殿も申しおり、居家を貸家に同意、秋味不漁当惑
- 18 書簡(宛名不明) 月日不明 1通  
西村の随人風聞よろしくない、場所へ下してほしい、美祢女の病状薬ほしい  
差出人源左衛門か
- 19 福山本店宛 3月9日 4丁  
本店への書状と百五十両は受け取ったか、白米百五十俵を買い入れ、鯡漁よくない 新鯡すし、罎塩引、筋子を送る、米価 他
- 20 福山本店宛 3月11日 1通  
寿丸一両日滞船するので書状送り物をあつらえる、臼井様より百両請取った、昨夜の鯡は薄立
- 21 福山本店宛 3月20日 1通  
漁は今日まで沖上げ、両三日よろしい
- 22 福山本店宛 4月2日 4丁  
鯡差網は薄漁、松前は大漁とのこと、小樽、高島、ヲシヨロの模様、筵、米を買い入れ、送籍、永住しなければ不都合
- 23 福山本店宛 6月17日 1通  
久保丸ヲシヨロ到着、荷物なし、取組はしない、当年より秋味漁見合せ 委細取調 勇治郎船代金、他
- 24 福山本店宛 6月23日 1通  
久保丸取組、六百両勘定願上げ、勇治郎船代金、船道具、梅屋の本陣取替金、仕入品代金差支え、千二百両為替取組、長寿丸出帆
- 25 福山本店宛 7月2日 1通  
長寿丸送り状 当年下ケ金二千両札ホロへ願出る、差引いても不足に当惑
- 26 福山本店宛 7月29日 1通  
長寿丸24日出帆、千五百両為替取組 番人手当
- 27 福山本店宛 10月1日 1通(封入り)  
本店よりの便りがないので、滞り居るのか
- 28 福山本店宛 1月12日 2丁  
小樽では預りにならず、スクツシにて仕入品積取、諸道具預り
- 29 福山本店宛 7月4日 9丁



- 長寿丸出帆、不融通に困入る、荷物売捌漁具調、追伸、覚書あり
- 30 林長左衛門宛 7月16日 4丁  
旅人出立、入牢百姓一条解決をよろこぶ、帳場、頭役のこと、出店荷物手配、  
約定破談 米不足、地面を売ってでも借財を軽くしたい
- 31 林長左衛門宛 8月2日 9丁  
稻荷神託宣書、美祢の病状、大松前の地面売払い、秋味場仕立、会津家一統が  
大川筋に在住、薪の入手困難、鮭場勘定
- 32 願書  
稻荷を船便で、白鳥氏に奉書写を、両霊神の書、稻荷の幟、赤地金襴等を送っ  
てほしい (筆者源左衛門か) 1枚
- 33 林御母上様宛 9月30日 6丁  
30年来の暑さ、まゆ女のしつけ、我俣に心痛、市中学門所が始まるので入門  
させるつもり、寺参詣の衣服 身の廻りのものは心配なし、鮭の建網9月21  
日打上り、当郡大不景気、通行人多し、興行禁止、とき女、臼井内義
- 34 林長左衛門宛 10月10日 2枚  
9月26日付書面着、慈功庵大姉の白骨を送ったところ葬式を営んでくれた由、  
入費をかけてすまない(差出人林源左衛門・代筆)
- 35 林長左衛門宛 11月18日 6丁  
慈功庵の死後、まゆ女への遺言 日々学門所に通っている、越後半之助より出  
血の件残念、長七に漁場をまかせては、地面売払借財済、巻物返品、慈功庵の  
位牌、太陽暦、厚岸昆布まとまらず、松栄丸荷物年賦、林家名字、三蔵の件、  
福は大漁、一箇分の雇逃亡
- 36 福山本店宛 11月18日 1通  
口上書：位牌を安鎮したいのでお願い
- 37 林貞宛 3通  
①口上書(祖母へ伝言を依頼)②記(筒着もの、半着、じゅばん、ほか衣類数  
量)③追記(袋踏皮、足袋 紐)  
書簡に添付されたものか
- 38 林子供宛 1通  
相模、軽業、ボンとジャボさんの入用品
- 39 口上 1通  
蔵米、白米、身欠、酒につき
- 40 林長左衛門宛 7月8日 7丁  
野子が福山に滞在しお世話になり感謝、稻荷宮とイタコおろし、金繰一件、大松  
前浜地面売却してよい、美祢が安産母子とも元気、シリパの荷物当方で売り捌い

てはどうか、友四郎の取扱い、百姓一条心痛、長七いまだ札幌へ行かず

4 1 林長左衛門宛 7月13日 8丁

雇船大成丸、伊勢丸着荷物積入、法幢寺届ケ金、帳場のものへ不容易のこと披見、当地では清算不可能、土地売却を、雇船荷物、出産祝に感謝、獅子舞の品番人への手当未払 長七寄留

4 2 林長左衛門宛 7月26日 5丁

駅掛の友四郎は小役も勤めているので、余市を離れることができない、そこで永蔵を登らせるので、厚岸の用向きも同人に申し付けられたい、大成丸、伊勢丸出帆、金繰り悪く、番人不平、嘆息、福漁場、4カ所の漁場の内1カ所を賃場所にしたい、馬形宮神のお符がほしい

\*同日付「心得書」3丁を添付。鮭漁仕法、長寿丸売船、栖借金他、覚として、経費概算等記載。

4 5 5 余市場所. 林家家政関係文書

1 鮭塩引積荷押領出入一件 弥兵衛(竹屋手船沖船頭) 明治5年 綴 4通

①5月17日付栗林、佐竹宛書簡、聴訟局訴状 ②5月22日付栗林、佐竹宛書簡 ③6月付聴訟役所宛書簡、積荷調書つき ④7月11付上店宛書簡(包み紙紙コヨリ)

2 勝五郎、忠次郎書簡(上本店帳場宛) 1月25日 1通

南部家70人余、1月7日箱館着、9日出立1月25日岩内着、病人あり

3 茂右衛門書簡(林家本店宛) 1月12日 1通

柴田屋繁郎を川村長治郎同道で中国辺に仕入れに出した、売用品不足、金繰大不融通

4 函館会所より子モロ領方面駅場昆布場開発進行の報告 三山屋茂右衛門(林旦那様宛) 未(明治4年) 6月12日 綴 2通

\*10月26日付松代屋市作より三山屋茂右衛門宛書状を付す。

5 仕法替心得向控 林家余市元小家 壬申(明治5年) 8月21日 横帳 5丁

6 覚 竹正 酉(明治6年) 2月 横帳 5丁

\*金銭収支帳 本店あて

7 林家本店発信文書綴 明治7年 綴 32通

\*おもに余市元小家宛の書状、仕切書類。

8 林家書状 林家本店(林家余市元小家宛) 2月26日 1枚

場所切開きは引合わず、御用向請書

\*前部欠損

9 店行書状写 1枚(2つ折)

大坂行、唯吉暇遣、長二郎暇遣 他

10 伺書 2枚

受負は覚束ない、漁場出願10ヶ所とすべきか、番家のこと、秋味漁のこと、札幌本府へ出ること

- 1 1 場所送り品名 1枚
- 1 2 場所送り品名 2枚
- 1 3 返済金領収書 45両 明治2年5月22日 栖店 1枚
- 1 4 返済金領収書 明治2年5月22日 ※店 1枚
- 1 5 返済金領収書 45両 明治2年5月22日 ※店 1枚
- 1 6 返済金領収書 45両 明治2年5月22日 店(月行司 店宛) 1枚
- 1 7 受取書 入金150両 他30両 明治2年5月21日 店
- 1 8 覚 紀国屋久太郎 未12月29日 1枚  
林家本店宛 金子出入の通知
- 1 9 覚 林家余市元小家 申年5月 横帳 2丁  
雇番人給料、借入金等の勘定
- 2 0 覚 林家余市元小家 5月18日 横帳 2丁  
買入品覚、その品代
- 2 1 覚 林家余市元小家 申年7月4日 横帳 2丁  
本店宛、粕、身欠等代金と拝借金の清算、6月古平荷物直段あり
- 2 2 借入金高報告 林家余市元小家 3月2日 1枚  
本店宛 借入金約1000両、勘定6000両になる
- 2 3 長寿丸積入本送り状写 林家余市元小家 申年6月22日 横帳 3丁  
福山本店宛 鮭粕、白子、身欠等
- 2 4 長寿丸積入送り状写 申年6月22日 横帳 3丁  
林長左衛門、工藤忠兵衛宛 鮭粕、胴鮭、身欠、白子等
- 2 5 浜相場 林家余市元小家 申年7月3日 1枚  
本店宛 筒鮭、数の子、粕、笹目 他の直段
- 2 6 歌文 一紙
- 2 7 書状包み紙 1枚  
一紙を2回使用 ①表紙 林源左衛門(余市郡)→御母上(福山)(11月19日) ②表紙 万屋猪三郎→林源左衛門(西地余市郡)(1月2日)  
\*書状なし
- 2 8 書類袋 1枚  
\*表記「廉々件書類 午正月」
- 2 9 書類袋 1枚  
\*表記「ヨイチ来状入 申年正月より七月中迄」

4 5 6 松前藩役所. 町年寄関係文書

- 1 殿様、若殿様え献上目録 1枚(巻あげ)
- 2 殿様参勤通知 蛎崎右将 1枚  
\*殿様参勤三馬屋駅まで
- 3 町年寄より遠藤様宛伺書 11月25日 1枚  
藩への寒気献上品を忌服中の者が持参してよいか、忌明けの後にするよう添書
- 4 行列、引船等掛役名 1枚
- 5 河津、鈴木様付添人行程 1枚
- 6 庄内藩、秋田藩行程予定 1枚
- 7 乾丸、都丸、外五艘破船の件 亥年 4通  
\*宛名はいずれも桜庭丈左衛門、林長左衛門、塩田作左衛門  
① 11月15日付 ② 11月16日付 ③ 11月16日付 ④ 11月18日付
- 8 養子縁組願書写 子8月 山崎屋新八(町年寄宛) 1枚  
林長左衛門娘との縁組
- 9 氏家紀様詰居の通知 3月18日 町年寄 1枚
- 10 阿吽寺返事 14日 阿吽寺役僧(「上」宛) 1枚
- 11 種油ほか直段 □倉屋、京屋(小納戸所宛) 4月12日 1枚
- 12 書状 8月 1枚

#### 457 町年寄林長左衛門宛書簡

- 1 厚谷兵部 9月21日 1枚  
茂草村に出向くので同村にいるよう
- 2 今井八九郎 閏3月11日 1枚  
8両2歩の融通依頼
- 3 今井八九郎 閏3月17日 1枚  
刀の売却依頼
- 4 上田鉄之進 12月晦日 2枚  
年賀の規式に屏風、火鉢、燭台を借用したい
- 5 上田了右衛門 3月25日 1枚  
出勤の問い合わせ
- 6 了右衛門(上田) 20日 1枚  
出勤延引
- 7 上田(了右衛門) 27日 1枚  
村山金八郎差遣、六千両御用向
- 8 了右衛門(上田) 霜月20日 1枚  
上方よりの手船御用を勤めたい
- 9 遠藤又左衛門 3月18日 1枚

若殿様参詣

- 1 0 遠藤又左衛門 閏3月9日 1枚  
浜辺で凧上ケの者あり、中止を
- 1 1 遠藤又左衛門 6月17日 1枚  
金子引替、伊達、栖原と協議
- 1 2 遠藤又左衛門 6月21日 1枚  
問屋頭取呼出し
- 1 3 遠藤又左衛門 7月17日 1枚  
日和見両人の内1人御免
- 1 4 遠藤又左衛門 9月27日 1枚  
阿吽寺参詣
- 1 5 遠藤又左衛門 12月19日 1枚  
御用通知
- 1 6 遠藤又左衛門 19日 1枚
- 1 7 遠藤又左衛門 23日 1枚  
呼び出し
- 1 8 遠藤又左衛門 28日 1枚  
白鳥司よりの願出
- 1 9 大場九十 8月12日 1枚  
鎗の件
- 2 0 蛎崎蔵人 12月27日  
五両借用願
- 2 1 蛎崎弥左衛門 8月15日 1枚  
林檎進上、祭礼に家内共罷越
- 2 2 金田松右衛門 12月28日 1枚  
再役願上
- 2 3 金田松右衛門(?) 6月18日 1枚  
南部出生の重五郎の風説
- 2 4 光善寺役僧 7月18日 1枚  
参詣予定日
- 2 5 後藤一記 9月12日 1枚  
茂草村出役につき馬の拝借
- 2 6 桜庭嘉右衛門 季秋朔日 1枚  
商品代理購入依頼
- 2 7 桜庭丈左衛門 9月23日 1枚  
潤入を明日7時前に

- 28 桜庭丈左衛門 11月23日 1枚  
伝兵衛イシカリ場所請負嘆願
- 29 桜井小膳 5月29日 1枚
- 30 佐藤久作 11月晦日 1枚  
石見殿再縁一条
- 31 塩田作左衛門 8月晦日 1枚  
病気欠勤、近々出勤予定
- 32 清水平三郎 9月10日 1枚  
心配におよばず
- 33 関川平四郎 3月18日 1枚  
小早丸にて出帆、通り状、印鑑願
- 34 竹田作郎 3月18日 1枚  
詰所へ来られたし
- 35 田崎良次郎 12月19日 1枚  
役所に来るよう
- 36 富永与三兵衛 2日 1枚  
町内沖口下代席順
- 37 富永与三兵衛 26日 1枚  
クトウ建網冥加
- 38 富永与三兵衛 朔日 1枚  
通行先触、三百両到着
- 39 富永与三兵衛 13枚(綴)
- 40 平沼新太郎 9月13日 1枚  
内話の一条いかに
- 41 法幢寺副司 3月18日 1枚  
若殿様仏参
- 42 法幢寺副司 4月13日 1枚  
使者により認なおした
- 43 法幢寺副司 7月15日 1枚  
泉沢へ送りたい
- 44 右筆(松前藩役所の内) 6月28日 1枚  
文政度赤坂屋又兵衛の営業取調
- 45 役所書役(松前藩役所の内) 12月11日 1枚  
書役6人に鮭塩引1本もらいたい
- 46 近習番頭当番(松前藩役所の内) 6月25日 1枚  
献上の問い合わせ

- 47 近習番頭（松前藩役所の内） 7月11日 1枚  
近習番頭詰所まで出勤
- 48 近習番頭（松前藩役所の内） 8月26日 1枚  
呼び出し
- 49 近習番頭（松前藩役所の内） 9月14日 1枚
- 50 勘定所（松前藩役所の内） 12月30日 1枚  
詰役は早々納めるよう
- 51 勘定所（松前藩役所の内） 12月27日 1枚  
呼出し
- 52 勘定当番（松前藩役所の内） 6日 1枚  
詰所にくるよう
- 53 小納戸役所（松前藩役所の内） 4月16日 1枚  
呼出し
- 54 小納戸役所（松前藩役所の内） 1枚  
呼出し
- 55 小納戸役所（松前藩役所の内） 1枚  
呼出し
- 56 小納戸（松前藩役所の内） 1枚  
呼出し
- 57 小納戸（松前藩役所の内） 1枚  
納戸金證文の件
- 58 小納戸（松前藩役所の内） 5月22日 1枚  
呼出し
- 59 小納戸（松前藩役所の内） 11月22日 2枚  
塩引筋子相場書、同再調査
- 60 小納戸（松前藩役所の内） 12月27日 1枚  
詰所にくるよう
- 61 役所（松前藩役所の内） 3月10日 1枚  
印形持参
- 62 役所（松前藩役所の内） 11月22日 1枚  
阿部屋伝次郎拝借金
- 63 町奉行（松前藩役所の内） 6月24日 1枚  
呼出し
- 64 詰所当番（松前藩役所の内） 6月21日 1枚  
江戸表より帰着、恐悦のこと
- 65 下代当番（松前藩役所の内） 1枚

小判引替差出し

- 6 6 下代当番（松前藩役所の内） 6月22日 1枚  
子供持参渋紙包の取調 裏面に回答文
- 6 7 下代（松前藩役所の内） 7月14日 1枚  
法会の御目見町人への下品
- 6 8 下代（松前藩役所の内） 12月19日 1枚  
江戸表よりの為替切手
- 6 9 当番（松前藩役所の内） 10月29日 1枚  
若殿様参勤恐悦申上
- 7 0 沖ノ口下代当番（松前藩役所の内） 7月6日 1枚  
作一の出判不都合につき取調
- 7 1 沖ノ口下代（松前藩役所の内） 4月3日 1枚  
生府沖にて秋田船破船
- 7 2 沖ノ口下代（松前藩役所の内） 4月25日 1枚  
届書進達依頼
- 7 3 沖ノ口下代（松前藩役所の内） 12月20日 1枚  
鯉取談印帳写済
- 7 4 沖ノ口下代（松前藩役所の内） 1枚  
長田八蔵帰国延期
- 7 5 浜町当番（松前藩役所の内） 10月19日 1枚  
殿様江戸着の達
- 7 6 馬屋詰所一同（松前藩役所の内） 11月13日 1枚  
塩引払い下げ
- 7 7 西洋流世話（松前藩役所の内） 7月17日 1枚  
立石野を通過する船、先触の人の有無
- 7 8 村山金八郎 1月27日 1枚  
役所へ名代勤を
- 7 9 村山金八郎 5月17日 1枚  
居間冬支度手伝い
- 8 0 村山金八郎 7月20日 1枚  
伝次郎より差出した願書
- 8 1 村山金八郎 7月26日 1枚  
若殿様草双紙を求めている
- 8 2 村山金八郎 8月6日 1枚  
七社祭礼奉行
- 8 3 村山金八郎 9月12日 1枚



- 茂草村へ出向く差支えの有無
- 84 村山金八郎 9月12日 1枚  
近習番頭中へ行く
- 85 村山金八郎 10月2日 1枚  
土佐家一軸御下げ
- 86 村山金八郎 10月4日 1枚
- 87 村山金八郎 10月24日 1枚  
居間張替
- 88 村山金八郎 11月9日 1枚  
法事につき詰所に出られない
- 89 □岡小伝治（片岡？） 閏3月14日 1枚  
伊達屋精十郎箱館へ出立
- 90 □岡小伝治（片岡？） 8月6日 1枚  
村山金八郎、白鳥司の伺
- 91 □岡小伝治（片岡？） 9月10日 1枚  
飯米手配してもらった代金支払を12月迄延期してほしい
- 92 儀右衛門 8月27日 1枚  
遠藤様より熊野社人の件
- 93 儀右衛門 1枚  
大沢村等見分予定
- 94 左平治 10月28日 1枚  
庄兵衛一件
- 95 村山金八郎 6月6日 1枚  
東西場所請負七年季おわりの冥加上納の手はずを問う
- 96 □ 23日 1枚  
\*差出人名が判読できず
- 97 □ 23日 1枚  
\*差出人名が判読できず
- 98 □ 4月17日 1枚  
馬差の発令年月取調  
\*差出人名が判読できず
- 99 □ 8月8日 1枚  
15両の恩借願、證は具足一領  
\*宛名記入なし \*差出人名が判読できず

---

北海道立図書館所蔵

林家文書 追加目録

( 北 の 資 料 第 117 号 )

発行日 平成 19 年 3 月 29 日

編 集 北海道立図書館北方資料部

発 行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

電話 (011) 386-8521

F A X (011) 386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>

---